

◎平出水への  
集団学童疎開

## 上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課  
上西集落支援員  
馬場 信一 編集  
連絡先090-9579-3953  
上西校区長責任発行

## 大口平出水への集団学童疎開を語る 〈第5回〉

## 大崎(旧姓:鮫川)カズ子さん(88歳)

大崎カズ子さん  
は花里崎けりさきの生まれで、  
小学6年生のとき  
集団学童疎開を経験  
しました。



どんな思いで出発したのですか？

港じゃ、あっちこっちでみんな泣いてな。  
2年生の子もおいわけやろが。

受け入れ家庭での生活のようすは？

永富ながとみさんちゆう人の家に世話一なつたど  
や。自分な一きょうだいはおらんじい、家  
でおい(私)一人やろが。寂しゆうして、  
寂しゆうして、葉書にやー「おっちゃん  
(父親)母ちゃんなんども来てくれ」ちゆ  
うで書あて出あててや。

米の飯もあつたばって、田あ鯉こを飼一とつ  
て食うたいば、うまかつたろ。物が無つから  
川ミナ(ニナ)、ガブジョー(川魚)をばあ  
さんが味噌煮してくれた。イチゴ(野イチゴ)  
なんども食うたとや。イナゴは食わんにやつ  
たばって、とにかくひだる(ひもじい)かつた。

平出水小学校での生活のようすは？

勉強したちゆうこたあ、覚えとらんなあ。  
学校じゃあ木ひれを拾一行つか、開墾かいこんすいちゆ  
うて芋植えをさすいかやつたな一。

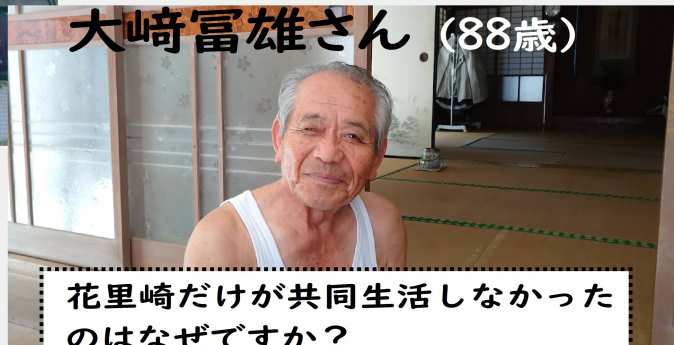
帰りの船で忘れられんことがあったとか？

安城の衆がもんず(戻る)ちゆうてみん  
なよろ一て船に乗ったばって、エンジンが  
悪うして一週間ばつかい沖い流されとつたて  
や。そんなとき安城の先生が『学童疎開の歌』  
を作ってくれて、みんなで覚えたてや。  
(実際にカズ子さんが歌った映像音声あり)

大崎富雄とみおさんも

小学6年生のとき集団学童疎開を  
経験しました。大崎出身の富男さんは  
なぜ花里崎の人たちだけが、共同生活を  
せずに最後まで受け入れ家庭で  
生活できたのか理由を話して  
くださいました。

## 大崎富雄さん(88歳)



花里崎だけが共同生活しなかった  
のはなぜですか？

終戦になったんじ一、兵隊ん衆を受け  
入れ家庭に入るいちゆうて、おいななどが  
仕方なし一出て、共同生活したとや。平出  
水の中央ちゆう部落で、学校の周りい集會  
所とか精米所があつたからやろうなあ。

花里崎ん衆は校区のはずれで湊辺ちゆう  
部落やったから、兵隊ん衆の住む家は足り  
とつたからやろうなあ。受け入れ家庭にや  
あ、最後まで居りなつたあ。

終戦後は食うものが無一してイナゴを串で  
刺して焼一て食ったちゆう人もおいばって。

焼一てなんど食お一かい。羽をちぎって  
そんまま食うたとや。ん一まかつたろ一。

食うもんが無かろうが。人ん家一のスイ  
カとかキュウリなんど一ば盗ぬすど一して食う  
たもんじゃつた。そあ一んことばつかいや。  
ひだるかつたからな一。

『疎開の歌』を今も歌える人は少ないと思われます。また花里崎の児童だけ、最後まで受け入れ家庭で生活を送ることができた理由がわかりました。疎開を経験した方のお話は、大切な財産として後世に残しておくべき記録であると言えます。